

2025年の抱負

1. 2025年の初夢

去年の初夢で今年7月に事業承継するにあたって財務体質の改善が課題と掲げましたが、お客様の業績に貢献できる体制になり契約の改善が実現して社員の給与アップや待遇改善に着手する事が出来たと共に財務体質が少しずつ改善しています。しかし、内部留保で長期間経営できる余力を持つ程ではなく、程遠いと実感しています。

さて、私は満75才になり後期高齢者となりました。昔は還暦が過ぎれば「おまけの人生」と言い、定年退職後は右掲のように家庭菜園に励む方も多くいらっしゃいました。いわゆる「スローライフ」です。確かに、2年前に大手術してからは体力の衰えを感じるようになり、休養を意識するようになりました。例えば、毎日のパターンは朝7時半に喫茶店でモーニングを頂き、ご近所の方々と談笑してから8時半に出勤、11時に買い物を兼ねて退社してお昼を済ませて2時に出勤、そして5時半頃に退社というサイクリックな生活です。土日もほぼこのパターン。自炊しているので食後も休憩時間を多くして、すぐに仕事ということ避けるようにしています。

従って、このサイクリックな生活パターンで「健康」＝「運動」x「食事」x「社会」のフレイル対策を行ない、「スローライフ」に向かって、少しずつ変化させる必要性を実感しています。例えば、「運動」ですが、12月に廃車して代替移動手段として6段変速の自転車を購入しました。従来は徒歩ばかりでしたが、自転車で行動範囲を広げたいと思っています。まずは、休日の昼食に三男と外食を継続して、自転車に慣れるようにしたいと思っています。さらに、自動車に積んでいたCDの再生に右掲のプレーヤーを購入して、朝の事務所でCDやラジオを楽しんで「ゆったり」した時間を楽しんでいます。



2. 「賢い考え方」

H商会のS社長は12月の社内報で「人生の中に仕事があるvs仕事の中に人生がある」と紹介されて、例として、大谷選手は「野球(仕事)の中に人生を見出している」と紹介されて、一つの「賢い考え方」とされています。確かにプロは契約の世界で「競争」が厳しい「自己実現」の世界ですが、一般的には終身雇用の世界なので「横並び」的な人が多いので、もう一つの「賢い考え方」が必要です。勿論、業績を挙げて出世街道を歩む方もいらっしゃいますが、「居場所」としては「仕事」になり「家庭」という視点は薄れがちになる側面が課題です。

しかし、時代が変わり「生産性」がキーになり、「コスパ」や「タイパ」という時代で一般社員も競争に晒されるようになり、特に、AIやDXなどで職が無くなる時代に向かっています。例えば、回転すしチェーンでは、受付や予約もシステムであり、入場案内もシステム、席からタブレットでオーダーしてレーンで自席まで運ばれ、精算も皿数などを確認に来るだけで支払いも自動化されています。つまり、人は席の準備・皿の確認そして注文の寿司を握るという業務だけのローコストオペレーションです。寿司職人と言いますが、「匠」になり独立したいと「夢」を持っている方は非常に少ないように思います。どちらかと言えば「作業員」の感覚ではないかと推測します。

佐藤社長の「賢い考え方」はマズローの「自己実現」の領域で、職場の中で「尖がった」存在になれば実績が出来てレガシーになりますが、「居場所」という点では「評価」が伴わないと組織に居づらく独立や転職で「居場所」を求め転々とする事にならないかと危惧します。プロは契約の世界で現役時代の実績がレガシーになりますが、日本企業も終身雇用の概念から脱皮してレガシーを活かして同業他社への転職もありとする時代が来るように思います。それには少なくとも年功序列を廃止して「実力」本位の社会風土の変革がキーになり、生産性の低い部門にいる方々は「居場所」が部門ごとなくなる時代につながりそうに思います。

3. スローライフ時代の「賢い考え方」

第1項で75才になりスローライフを書き、第2項でS社長の「賢い考え方」で「自己実現」の世界と相反することを書きましたが、私自身はサラリーマン時代、コンピュータに没頭してシステム開発の端境期に社外の開発を行うほどのコンピュータ中心の生活で、20年経過して「尖った」存在になり営業部門にOJT活動する程になったが、他部門との関係が悪くなり業務課長を命ずという辞令を受け、ふと家庭を見ると共働きで家庭崩壊寸前の状態に気づいたのです。妻とも相談して「社長はクルマの道、私はシステムの道を歩みたい」と辞表を出して、システム会社にNo. 2で落下傘降下した状態でした。この会社はトヨタ系販売店の子会社で、役員も親会社からの落下傘でモチベーションが低い状態で「居場所」を築けずに、会社には「DIPS」を導入し、私は自費で船井総研客員経営コンサルタント養成学校に通い、コンサルティング営業を目指したが、他の方から「栩野さんの客をつくるだけ」という批判で独立を決意したのです。

仕事でも家庭でも地域でも「居場所」が大切です。経営コンサルタントとして起業したのですが、船井先生は「相手の手段になれ」と教えて下さり、'95年当時、企業なら100%普及のFaxに着目して「Faxちらし3段活用マーケティング」と商品化して開業し、30年の間には波乱万丈の浮き沈みがありました。運よくお客様に恵まれて今日に至っています。そして、お陰様で三男に事業承継する事が決まっている状況です。去年の流行語大賞は「ふてほど」でしたが、若い人たちとは考え方に「昭和」と「令和」のギャップがあり、私の考え方は若い方から離れて行く傾向にあります。事業承継後は総務的な仕事で貢献したいと思っています。

「賢い考え方」には2通りあると思いますが、基本は「充実した時間」を過ごすことが大切と考えています。「充実」は何かと定義すれば「笑顔」でいることがベースなので、会社で仕事ばかりでなく、地域社会との交流にも参加する事がポイントになります。今のところ、喫茶店でモーニングを頂いていますが、同世代の男性が少なくなり女性陣が多くなっています。当然、話題もスポーツではなく食事や健康が主になって来ます。また、喫茶店も高齢化で廃業の可能性があるので、より広く地域社会との交流が重要になると考えています。

4. 「抱負」: 充実時間

「百歳現役」を目指すには「スローライフ」の過ごし方が課題です。お陰様で「キョウイク」や「キョウヨウ」は事務所があるので「行く所」と「用事」に恵まれているので、若い世代の邪魔をしない程度に「出来る事」を行えば良く、他の方々と比べれば恵まれた環境にいます。しかし、積極的な充実という点では仕事量が減って時間が余るようになっている現実があります。時間を充実させるために、例えば、メルマガの記事を書く事や「独り言川柳」を考えることで充実した時間で味わっています。

右掲は4つの認知機能を表していますが、これらを維持するには「健康」＝「運動」x「食事」x「社会」の3つの機能がベースですが、「運動」が第一課題です。基本は自宅と事務所の2往復を約5km歩くようにしていますが、さらに、昨年12月に自動車を廃車して代替移動手段として購入した6段変速の自転車で行動範囲を広げ、自動車では行けなかった新しい店などを発見したいと思います。サミュエル・ウルマンの詩「青春」にあるように、好奇心を持ち続けることが重要です。フラッと立ち寄って、お店の雰囲気や特長に接することでマイブームを見つけたいと思っています。



「スローライフ」はお陰様で年金も必要十分に頂いているのでベースは安定していますが、一度しかない時間の「充実」という面で課題が多くあります。「求めない」は加島先生の詩ですが、気軽に動けるように食事改善して健康維持に努めて、その上で「おもしろい」と好奇心を働かせて、ムリなく出来ることにチャレンジしたいと思っています。